

U-40 部会 presents リレーエッセイ ～私たちの体外循環史～

「私の人工心肺、JaSECT への情熱」

弘前大学医学部附属病院 堀 雅弥

弘前大学医学部附属病院 堀雅弥と申します。今回は、大阪大学の工藤様からバトンを受け取り、大変恐縮ではございますが、私の人工心肺、JaSECT への想いを綴らせていただきます。

「私は人工心肺、JaSECT が大好きです！」

私は人工心肺業務に従事して 5 年目になります。まだまだ若手ではございますが、尊敬できる先輩、JaSECT をきっかけに出会った多くの皆様にご指導を頂きながら、250 症例の人工心肺をメインで経験してまいりました。その中でも絶対に忘れられない症例が 1 症例ございます。xx 症例目で経験した術後に複雑な経過を辿った小児重症心不全症例に対する人工心肺でした。10 時間を超える管理の末、Central ECMO にて手術室を退室しましたが、私たちの懸命な願いも虚しく、救命することは叶いませんでした。ご家族の涙は今も心に深く刻まれています。

「自分に何ができたのか」「これが最善だったのか」と自問する日々が続き、眠れない夜もありました。そんな中、先輩方をはじめ、JaSECT で出会った多くの皆様から温かい助言や励ましをいただき、前を向く力を得ることができました。このようなご指導のおかげで、今では患者様や人工心肺に対して前向きな気持ちで向き合えるようになり、心から感謝しております。

学術集会やセミナーでは、知識・技術を吸収するだけでなく、精神面での支えや会員の皆様との繋がりを含めて、自分自身とチームの成長は JaSECT があってこそだと実感しております。

そんな JaSECT と私の出会いは、学生時代に遡ります。8 年前の「第 43 回日本体外循環技術医学会大会札幌大会」にて学生セッションで発表させていただき、先生方のご指導のおかげで、優秀演題賞をいただく機会に恵まれました。当時から、人工心肺に興味があり魅力を感じていました。そんな中、学会に参加をしてご講演を拝聴すると、Perfusionist の皆様がカッコよく、人工心肺もすごい！面白い！と感じました。そして、夜の意見交換会では「弘前大学で精進してこの世界を盛り上げたい！」と表彰式の壇上でお話させていただきました。私はこれまでの人工心肺経験 5 年の中で、先輩方にご指導をいただき JaSECT での発表は 4 回、体外循環技術誌には 2 編の論文を執筆することが出来ました。あの時の学生は、変わらず弘前にて精進しております。日頃から JaSECT を通じて学びを得ている感謝と共に、50 周年を迎える JaSECT の発展に少しでも貢献できるように今後も努めて参ります。

JaSECT は今年 50 周年という節目を迎えますが、「次の 50 周年」が待っております。僭越ながら、次の 50 年を待たずとも、10 年後には私のような若手が盛り上げて行くべきだと考えております。偉大なる先輩方の背中を追いかけながら、JaSECT が更に発展できるよう尽力いたします。JaSECT100 周年時に私は 79 歳になります。大好きな人工心肺と共に、次の 50 年を駆け抜けて参ります。

最後に、私の想いは皆様に伝わりましたでしょうか？